

授業科目名	芸術文化と観光	担当教員	平田 オリザ 高橋 一夫
必修の区分	必修		
単位数	1単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1年 第1クォーター		
講義内容	<p>本学での4年間の学びの出発点となる重要な科目である。観光分野と芸術文化分野という、一般的な通念からすると、その関係性の具体像がなかなかイメージしにくい二つの分野について、両分野を架橋することが、交流人口の多い活性化した地域像を創造する源泉になることを学修する。両分野の政策的な動向、諸外国では当然のように行われている両分野を架橋する取組み事例、そして国内で一つの象徴的な取組みとなりつつある国際芸術祭等を取り上げ、両分野の基礎的な理解とともに、それを架橋する意義を理解できるものとする。</p>		
到達目標	<p>①地域における、観光分野と芸術文化分野各々の産業的、公共的な意味について理解している。</p> <p>②両分野の架橋が、地域に新たな価値創造の源泉になることを理解している。</p> <p>③価値創造の考え方とともに、その具体的な展開事例について理解している。</p> <p>④自らが、地域の価値創造に対して、両分野を併せ持った視点から問題意識を持つことが出来ている。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 公共政策としての文化観光政策（平田）</li> <li>2 街づくりと観光文化政策（平田）</li> <li>3 観光とエンタテインメント（平田）</li> <li>4 芸術家から見た観光の意味（平田）</li> <li>5 観光事業と観光産業（高橋）</li> </ol> <p>－地域主体の観光とそれに関わる観光産業－</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6 旅行商品の構成要素とそれが消費者に届くまで（高橋）</li> </ol> <p>－マーケティングのはじめの一步－</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7 観光からみた芸術・文化（高橋）</li> </ol> <p>－観光と「文化の真正性」について考える－</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8 フェスティバルにおける観光の役割（高橋）</li> </ol> <p>－瀬戸内国際芸術祭を事例として－</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9 観光による文化・伝統の破壊と創造（高橋）</li> </ol> <p>－観光事業への共通価値(CSV)の導入事例から考える－</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>10 国の文化経済戦略における観光の位置づけ（高橋）</li> </ol> <p>－日本のブランド価値の最大化を促す文化観光推進法－</p>		

	<p>11 世界の文化観光政策（平田）</p> <p>12 但馬の文化観光政策（平田）</p> <p>内容は以上の通りだが順不同となる。</p>
事前・事後 学習	
テキスト	授業中に配布
参考文献	『新しい広場を作る』（岩波書店・平田オリザ）
成績評価 の 基 準	授業での発言・貢献（40%）、レポート（60%）
履修上の注意 履修要件	複数教員が担当するので、年次の初めに授業の構成（担当教員の時間割）をあらためて告知する。
実践的教育	該当しない。
備考欄	講師の授業割り当ては学期のはじめに発表する。